

本当のマネジメントとは

「経営」を英語でいうと

当コーナーの読者の皆様は、「経営」のことを英語で何というかご存じでしょうか。実は、日本語の経営にあたる、どんぴしゃりの英語表現はありません。敢えて近い用語を挙げれば **management** (マネジメント) でしょう。

かつては経営の英語表記として **business administration** が充てられることが多かったようですが、単語が 2 語にわたりますし、**administration** (管理) がラテン語起源の単語で、少々硬いニュアンスがあることもあってか、昨今ではシンプルに **management** といわれることが多いです。

ただ、この **management** という用語の語源や用法、オリジナルの意味についてはあまり知られていないようです。

全てがマネジメントの対象

経営の現場はすべてにマネジメントがつきものです。経営の全体を司る戦略部門はもとより、開発、生産、販売の各プロセス、人事や経理などのスタッフ部門も含め、すべてマネジメントという単語を直後に付けた言葉が実際に使われています。

また、経営学の学問領域としても、これらの経営の各プロセスに管理という語を付して、例えば生産管理論とか人事管理論とかいう呼称で呼ばれます。

マネジメントの具体的中身

マネジメントという単語の最もオリジナルな意味合いは、簡単にいうと「物事を、自分がこうやろうと思ったとおりに、うまく回していくこと」です。かつて 1960 年代のアメリカで、マネジメントとは具体的に何かということが盛んに研究されていましたが、そこから出てきた結論は、「計画して、実行して、確認する」という、至極当たり前のプロセスでした。

つまり、物事をやり遂げようとする、きっちり計画を立て、その計画通りに実行して、それがちゃんと計画通りになっているかどうかを確認して、もし計画通りでないところがあるとすれば、それを確認して軌道修正する、という、今日でいうところの PDCA (plan, do, check & action) サイクルの原型が、マネジメントの本質であると考えられてきたのです。

主体的意思が根底に

学生時代に英語をよく勉強してきた向きは、このマネジメントという単語の動詞形は **manage** で、後ろに **to** 不定詞を伴って「どうにかこうにか〇〇する」、「何とかやり遂げる」といった意味になることを学習されたことと思います。日本語にじっくりくる概念がない

ため、こうした奇妙な訳になってしまうのですが、要は、マネジメントをする人自身の主体的な意思でもって、各所にある障壁を乗り越え、うまく帳尻を合わせながら、物事をこなしていくことこそがマネジメントなのです。裏返していうと、そうした主体的な意思のない思いつきの行為は、本来、マネジメントではないということになります。

バランス感覚を身につける

各所にある障壁を乗り越えながら、物事をうまくこなしていこうとすれば、必要となるのはバランス感覚です。ごく単純な例を挙げれば、コストを削減したいという要請は経営者なら誰もが持っていますが、だからといって従業員の給料を下げすぎると、彼らの不満が蓄積され、結局のところ企業はうまく廻っていきません。

仕事で限られた時間を、何にどれだけ使い、全体としていかにうまくこなしていくかについてもバランス感覚が必要で、したがってこれも各自の時間管理（マネジメント）の課題です。

マネジメント能力は全員に必要

これから経営学を学ぼうとする学生に対し、私が最初の授業でよく述べるネタの1つに、「経営学を学習すれば、何でもうまくこなしていけるようになります」という小話があります。「大学で4年間、きっちり学習し、遊び、希望する就職をし、いい人生設計ができる・・・こうしたマネジメント的発想は、（他の学問領域を学んだ人よりも）経営学を修める皆さん自身がいちばんよくできなければなりません」といったような言い方で、説明しています。

日々、組織で働いておられる方々も、基本的には同じだろうと思います。マネジャーだけではなく、一人ひとりの個々人が、きっちり各自自身のマネジメントをしていかないとはいけません。そうしたことができる人々は、いずれマネジャーとなり、うまく組織全体を回していけるようになるはずで

株式会社インソース <http://www.insource.co.jp/>

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-19-1 神田橋パークビル 5階

TEL : 03-5259-0070 FAX : 03-5259-0075